

## 提言

変化に対応し、企業の持続的成長を支える  
リスキリング施策の実現に向けて

令和8年3月

広島県スキル整理ワーキンググループ

## 1 本資料の趣旨

本資料は、本資料は、広島県内企業のリスキリング推進を加速するために、広島県が今後取り組むべき方策等について、広島県スキル整理ワーキンググループ(以下、「ワーキンググループ」という)として提言を取りまとめたものである。

## 2 提言の背景

### (1)現状認識と課題

広島県では、全国の自治体に先駆けて、令和4年度から「機運醸成」と「実践支援」を柱とした県内企業に対するリスキリング支援を実施しており、令和5年度には広島県リスキリング検討協議会における議論を踏まえて「リスキリング推進ガイドライン」を策定し、県内企業における人材育成・スキル獲得等のリスキリングの方向性を示してきた。これは、変化の激しい現代社会において、企業が持続的に成長し、競争力を高めるために不可欠な取組との認識に基づいている。

しかしながら、本ガイドライン策定後も、とりわけ県内企業の多くを占める中小企業においては、リスキリング推進に関して以下のような課題を残す状況である。

#### ■ 習得すべきスキルの特定

多くの企業が「どのようなスキルを習得させれば良いか判断が難しい」といった悩みを抱えている。これは、自社の事業戦略と人材戦略を結びつけ、必要なスキルを具体的に特定するプロセスの複雑さに起因する。

#### ■ スキル活用機会の不足

せっかく従業員が新たなスキルを習得しても、「実務に活かす場がない」「習得したスキルが事業成果に結びつかない」等といった問題に直面することがある。これは、リスキリングが単なる座学で終わり、実際の職務におけるスキル転用や活用機会の創出が不足していることを示唆する。

#### ■ リソースの制約

人材、資金、ノウハウといった経営資源(リソース)に制約を抱える事業者においては、自社内だけで効果的なリスキリングを進めることが困難である。外部の専門的な伴走支援なしには、計画策定から実行、効果測定までの一連のプロセスを円滑に進めることは難しい。

### (2)デジタル化の進展とリスキリングにおける新たな視点

これらの課題に加え、近年急速に進展するデジタル化及びDX(デジタルトランスフォーメーション)の波は、あらゆる産業において事業構造や働き方を大きく変革している。この変化に対応するためには、単にデジタルツールを操作するスキルだけでなく、より高次のスキルが不可欠となる。特に、以下の能力がリスキリングにおいて重要性を増している。

#### ■ コンセプチュアルスキル(概念化能力)

デジタル技術やデータを活用して、現状の課題を本質的に捉え、抽象的な概念を具体化し、新たなビジネスモデルやサービスを創出する能力である。経営層や事業責任者に限らず、一般従業員においても、デジタル変革を推進するための俯瞰的な視点や戦略的思考が不可欠であることから、コンセプチュアルスキル(概念化能力)も考慮したリスキリングの実践が求められる。

これらの現状と課題認識を踏まえ、本ワーキンググループは、県内企業のリスキリングを一層強力に推進し、その効果を最大化するために、具体的な提言を取りまとめた。これは、中小企業が抱えるリスキリングの障壁を打破し、持続的な成長を支援することを目的とする。

### 3 提言の要旨

県内企業のさらなるリスキリング推進のために、以下を提言する。

#### (1) 広島県のリスキリング施策の方向性等に係る提言

- ・ 職務におけるスキル活用機会の創出・提供の検討
- ・ デジタル・DX 推進におけるコンセプチュアルスキルの必要性・重要性を考慮した施策展開

#### (2) 県内企業のリスキリングを後押しする支援策の拡充に係る提言

- ・ 自社の状況や習得すべきスキルを診断できるアセスメントツールの整備
- ・ 外部コーディネーターやコンサルタントによる県内企業に対する伴走支援等への支援強化

#### (3) スキル整理表の継続的な改善等に係る提言

- ・ スキル整理表及び利用ガイド等のさらなる見直し・充実に向けた継続検討

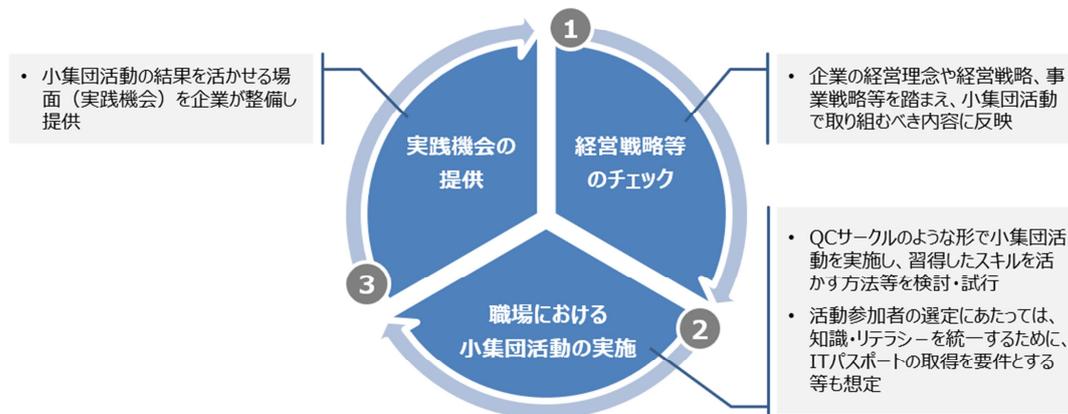
### 4 提言の詳細

#### (1) 広島県のリスキリング施策の方向性等に係る提言

##### ■ 職務におけるスキル活用機会の創出・提供の検討

能力は職務とセットであり、実際にスキルを活用する職務が定まっていなければ、スキル習得の意欲や効果は限定的である。スキル整理表を活用した後のスキル活用機会の創出・提供について、広島県が示しているリスキリングの取組ステップ等、より大きなスコープで議論することで、スキル習得と実務経験を結び付け、人材定着や付加価値・生産性の向上等を実現し、地域産業力強化に寄与する。

図：スキル活用機会を創出するためのプロセス（イメージ）



##### ■ デジタル・DX 推進におけるコンセプチュアルスキルの必要性・重要性を考慮した施策展開

OJT や社内研修、実務上での中長期にわたる様々な経験等を通じ、多くの企業において従来から習得が進められている分野であるものの、企業におけるデジタル・DX 推進におけるリスキリングスキルとして、支援ニーズは相応に存在しているものと考えられる。

また、生成 AI の急速な発展・普及等に伴い、「D」から「X」への移行段階、すなわち DX の導入から運用フェーズにおいて生成 AI の有効活用等が重要となり、そのためのスキルとしてコンセプチュアルスキルがより一層求められている。

今後、県が展開するリスキリング支援施策等においては、当該スキルの必要性・重要性を考慮したうえで設計・展開する必要がある。

## (2) 県内企業のリスキングを後押しする支援策の拡充に係る提言

### ■ 自社の状況や習得すべきスキルを診断できるアセスメントツールの整備

現在のリスキング推進ガイドライン及びスキル整理表の提供方法について、ホームページへの PDF 資料の掲載のみとなっており、辿り着きやすさや活用のしやすさにおいて課題がある。

本ワーキンググループにおいては、この課題を解消するため、スキル整理表利用ガイドの整理を行ったが、本年度の事業においては他の資料と同様に PDF 形式での利用ガイドの掲載までにとどまっている。

そのため、アセスメントツール等を提供することで、企業が自社の現状を容易に把握し、計画的な人材育成につなげることが望ましい。

### ■ 外部コーディネーターやコンサルタントによる県内企業に対する伴走支援等への支援強化

県内企業の実態を踏まえると、リスキング推進ガイドライン及びスキル整理表・利用ガイドを提供し、自主的な活用を促すだけでは、とりわけリソースに制約がある小規模事業者においては、リスキングの取組を自社の力だけで進めていくことは難しい。

そのため、外部のコーディネーターやコンサルタント等による支援も必要であり、こうした外部リソースの活用に対する支援を公的に行うことで、特に小規模事業者において実効的な取組を推進できる。

## (3) スキル整理表の継続的な改善等に係る提言

### ■ スキル整理表及び利用ガイド等のさらなる見直し・充実に向けた継続検討

スキル整理表の利用ガイドやアセスメントツール等により、ユーザーフレンドリーな利用フローの整備を進めることとあわせて、スキル整理表の難解さ解消のための簡易化や、企業の実態に即した職階区分の再整理、利用ガイドの充実等、今後も見直し余地は存在。

そのため、本ワーキンググループにおける議論に閉じず、スキル整理表が県内企業のリスキング実践のための効果的なツールとして活用されるための検討を継続する必要がある。

以上